巻頭論文

ソフトウェア開発プロセス・手法の革新への取り組み

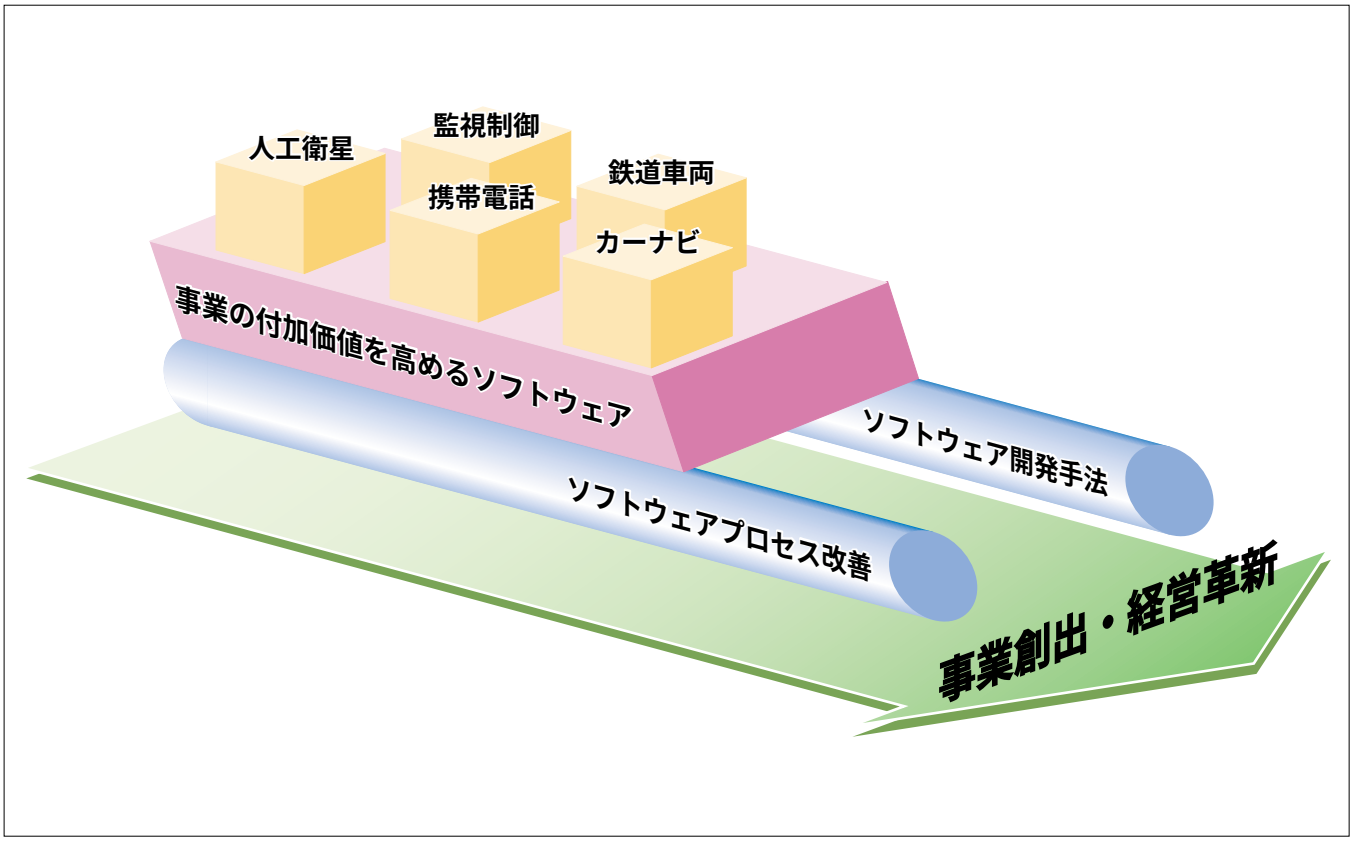
木村廣隆*　坂井英明**　堀池　聡***

要　旨

IT(Information Technology)技術の向上，また，その経済社会への浸透に伴い，社会インフラの整備，企業の経営革新，また個人の多様なライフスタイル実現など，あらゆる分野においてソフトウェアの比重はますます高くなり，付加価値創生の源泉がハードウェアからソフトウェアに移りつつある。その結果，ソフトウェアの規模は増大・複雑化し，短期間に多くの人数を投入する開発スタイルをとらざるを得ない状況が起きている。このような状況への対応には，ソフトウェアプロセスと開発手法の両面から，生産性と品質の向上に取り組むことが不可欠である。

三菱電機において，プロセス面では，これまでの問題解決型のアプローチだけではなく，本来あるべきソフトウェア組織の姿を定義し，体系的なプロセス改善に向けた活動を実施している。一方，ソフトウェアをより効率良く実現するには，既に作られたソフトウェアを再利用する技術が不可欠である。ただし，単なるソフトウェア部品の再利用ではシステム開発を効率的に進めることはできない。戦略的に再利用を進める仕掛けが必要である。ソフトウェア開発手法としては，分野対応のフレームワークを中心とする再利用技術に注力している。

当社では，ビジネス分野，さらには携帯電話，カーナビや多くの監視制御等のシステム製品に対し，ソフトウェアプロセスと開発手法両面のアプローチをとり，ソフトウェア開発の強化に取り組んでいる。



ソフトウェア開発のイメージ

ソフトウェアプロセス改善，手法の革新の両輪で，各事業の中核であるソフトウェア自体を高品質化，さらには生産性を高め，事業創出，企業の経営革新等に寄与している。

*設計システム技術センター長　**同センター ソフトウェア応用技術部 次長　***先端技術総合研究所 システム構築技術部 主席技師長(工博)